

## 教育委員会定例会会議録

1 日 時 令和5年1月25日(水) 午後2時30分～午後4時15分

2 場 所 伊東市役所高層棟5階中会議室

3 出席者 1番 高橋 雄幸君      3番 沼田 芳美君

4番 遠山 泰範君      5番 辻 恵君

4 参 与 教育部長 岸 弘美      次長兼教育総務課長 相澤 和夫

教育指導課長 関野 耕一      幼児教育課長 山下 匡弘

生涯学習課長 杉山 宏生

5 事務局 教育総務課課長補佐 太田 靖久

教育総務課課長補佐 掬川 宗範

主事 長津 雅也      主事 松岡 翔太

6 会議の経過

**高橋教育長**：ただ今から伊東市教育委員会1月定例会を開会する。議事に先立ち事務局から報告を行う。

(事務局から出欠報告及び資料確認)

**高橋教育長**：それでは議事に入る。始めに、教育長報告を行う。1月定例会教育長報告事項について、主な内容のみ説明を行う。

12月22日 放課後児童クラブ訪問(旭、西、宇佐美、東小)

23日 放課後児童クラブ訪問(大池、池、八幡野、富戸、南小)、

伊東・伊東西ロータリークラブより横断旗の寄贈

26日 アテネパラリンピックマラソン金メダリスト(高橋氏)来庁

27日 市懲戒審査委員会、(故)加藤清志先生宅訪問

28日 仕事納め式、政策会議、市長庁外職場巡回同行

1月 4日 仕事始め式、市長庁外巡回同行、教育委員会所管施設訪問、

商工会議所主催賀詞交換会

- 5 日 元市子連会長来庁
- 6 日 保育園訪問（小規模保育所えん、広野、栄光荻、八幡野、  
栄光富戸、つくし保育園、ちゅーりっぷ）
- 7 日 二十歳式リハーサル
- 8 日 令和5年伊東市二十歳式
- 10 日 校長会、JAふじ伊豆あいり伊豆地区より青島みかん寄贈、  
伊東青年会議所理事長来庁
- 11 日 保育園訪問（川奈愛育、富士見、夢きらら、栄光なぎさ、  
栄光湯川、宇佐美、玖須美）
- 12 日 校長人事関係個々面談
- 13 日 保育園園長面接、高齢者叙勲受章者宅訪問（岩澤氏）
- 15 日 第57回伊東オレンジビーチマラソン大会
- 16 日 伊東郷土研究会役員来庁
- 17 日 就学援助認定審査会
- 18 日 東部社会教育振興協議会臨時理事会、北中学校市長視察同行
- 19 日 文化財管理センター訪問、令和5年度市予算内示
- 20 日 静東地区教育長会
- 21 日 教育委員会定例会、政策会議

以上で報告を終わるが、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

**高橋教育長：**それでは、各委員からの報告をお願いします。

**委員：**東小学校で、子どもたちの作品展示を見る機会があった。その中に交流で他の学校から遊びに来た子のメッセージが出ていた。「来年になったら一緒

に遊ぼうね。」とか「来年になったら仲良くしてね。」というコメントがたくさん見られた。学校が一つになることに、すごい期待を持っているのだと思った。コロナ禍でなかなかうまくいかない部分もあったかと思うが、これからも応援していきたい。また、オレンジビーチマラソンの応援に行かせてもらった。知らない子たちにも声をかけるとスピードがちょっと上がって嬉しかった。頑張ってくれると、こちらも嬉しい。声をかけられる機会が戻ってきて、とても嬉しいことだなと思った。

**高橋教育長：**次に、議題に入る。始めに、議決事項、教議第16号「伊東市スクールバス運行に関する要綱について」を議題とする。

（事務局から資料に沿って説明）

**高橋教育長：**ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

**委員：**4ページの第13条に「委託により実施する」と記載があり、その中に入るのかわからないが、見守り要員は運転手にプラス何人程度が配置されるのか。記載がないが、その辺りは提示されないのか。

**事務局：**第13条の委託に含まれるのは、バス自体の運行と管理になり、バスの運行を精通する会社にお願するという内容である。委員から質問のあった見守り要員については、運行とは別に委託をする形になる。通学については、今までもPTA組織や地域の方に、横断歩道での旗振り等で安全確保にご協力をいただいている。今後は、新しい学校のPTA組織、地域の方の協力もいただきつつ、それだけでなく、市として運行とは別に人の確保ができないか検討している。

**高橋教育長：**人数的にどの程度の大人が関われるかという質問だと思うが、その辺りはいかがか。今の説明だと、見守りはまた別の業務というわけか。

**事務局：**はい。人数について正確な回答は難しい。5か所の乗降場所があり、

3人とかそういった人数で成り立つものではなく、1か所で複数人確保できればと思うが、何人かということは現時点でお答えが難しいところである。

**相澤次長兼教育総務課長：**少し補足をさせていただきたい。要綱の委託については、民間の自動車会社に委託をするという、大まかなところで委託という言葉を使っている。細かい配車等は契約の中で、別の契約書に載せるような形になる。運行に関して、安全安心に子どもたちを伊東小学校に送り、家の付近の降車場所まで送るという部分で、見守り要員、保安要員は必要だと考えている。今、予算の要求をしているが、まだ結果が出ていないので、今の段階では配置をしたいという段階になっている。今後、予算がどのようになるか分からないが、それによって配置の人数が出てくると思う。

**委員：**そういった内容は要綱の中には入らないのか。

**相澤次長兼教育総務課長：**これはあくまでもスクールバスの運行に関する要綱ですので、先ほどの具体的なものは委託するところとやりとりをする。今、委員がおっしゃった内容については、別の協定書なり、契約書なりで対応していく。

**高橋教育長：**正確な情報が分かれば、今後も教育委員会の中で報告をしていきたい。

**委員：**乗車券の件だが、ランドセルの横のフックに掛けるものか。

**事務局：**現状はそういったものを想定している。

**委員：**もしかしたら少し小さいのかなと思った。紛失の可能性もあると思う。4月からは、現状のままでいくと思うので、今日決めなければならないが、様子を見ながら検討した方がいいと思う。今は、ランリュックなど横にフックのない従来のランドセルではないものを背負う子もいるので、それが普及すると側面につけられない可能性がある。市職員の皆さんがつけている名札の紐なし、

フックにかけられるものがあるが、そういったものの方がいいと思う。

**高橋教育長：**この後、事務局に少し説明をしてもらうが、いろいろと考えて、色で乗降場所を区別したいという工夫があったと思う。大きさなどいろいろと議論はしたと思うが、そういうところはいかがか。

**事務局：**事務局としても、サイズやつけやすさ、紛失の可能性、雨への耐久性などを検討した。ランリュックについても、一定程度承知している。まずは色の識別を主軸に、そして外れにくいということで、現在の選定に至っている。委員ご指摘のとおり、この決定でずっとというつもりはない。スクールバスは伊東市においても初めての運行となるので、安全安心を重要視して、各方面検討を重ねている。4月以降、必要な見直しを適宜行ってまいりたい。

**委員：**取って外して遊ぶような子もいると思う。1年間をずっとつけられるのがベストだと思うが、改善も必要だと思う。

**委員：**第14条の2に「ルール」とあるが、細かい部分は今後決まっていくのか。

**事務局：**ここでは「ルールを遵守し」というような一言の表現になっているが、この要綱は、スクールバスが走り始めるための大枠のみを定めているものになる。その理由については、ルールは非常に事細かなものになり、年数がたてば必要なルールも変わってくると思う。そのルールを事細かに記載すると、都度要綱の変更が必要なため、あくまでもスタートの大枠として定めているのが、この要綱になる。お配りできておらず大変恐縮だが、現在、スクールバスのしおりというものを作成している。利用する保護者の方が必要な情報をひとしきり入れ、それを見ればある程度必要な情報がわかるようにしようと、作成を進めている。保護者の方に守っていただきたいルール、子ども向けのルールの記載を進めている。完成できたら、対象の家庭に等しく周知し、その上で利用の

申し込みをしていただけたらと、作成を進めている。

**委員：**事務作業も大変だと思うが、大事なことなので、ぜひよろしくお願ひしたい。あと、あつてはいけないことだが、事故の場合の責任の所在や処理については提示されるのか。もうひとつ、フローチャートによって利用の判定ができると書いてあるが、フローチャートは、今後提示されるのか。

**事務局：**まず一点目、万が一のときの話になるが、委託先の会社が運行の中で、事故があった場合、もしくは災害があった場合の対応は、いわゆる危機管理マニュアルとして、定めておく予定である。一番重要なことは、万が一のことが起きた際、乗っている子どもたちの安全確保をどのようにするのか、このような保険に入っておいてくださいですか、そういった事細かな条件、いざというときの対応は、運行する会社とあらかじめ定めた上で4月を迎えたいと思っている。2点目のフローチャートについてだが、このフロー図、今後どこに入るかということ、スクールバスのしおりに入る予定である。

**委員：**第12条の3に当てはまるのか分からないが、コロナで例えば、学級閉鎖になった場合は、終日授業が終わるまでやってから下校させているのか、午前で打ち切り午後から下校という形をとっているのか。

**関野教育指導課長：**学校に来る前に、感染が広がっていることが判明したら来させない。来た段階で判明した場合は、極力午前中までに返す。それから病院に行っていて感染者が何人か分からず、結果陽性の情報が、例えば10時11時に入った場合は、その日によって異なるが、別室で給食まで食べさせて、できる子は帰し、帰せない子については保護者の仕事が終わるまで学校で預かっている。また、給食を食べ終わった後に、段々と内部で不具合者が出てきた、行政の報告が入ったというケースは、帰りまでやって、保護者に迎えに来てもらう、場合によっては一人一人帰し、次の日から学校閉鎖としている。本当に

ケースバイケースで対応している。

**委員：**今後学区が広がる。もし今説明のあった対応で午前中に閉鎖となった場合、バスは出るのか。バスが臨時で出ないとなると、例えば旭小学区の海立などに住んでいる子も歩いて帰らなければならない。親が家にいない場合や1人で不安という子は学校に残れるが、そうでない場合、学級閉鎖になったクラス用にバスは出ないのか。

**事務局：**ケースバイケースのところもあるため、明確な答えが難しいところである。先ほど教育指導課長から説明があったような、保護者がすぐに迎えに来られないため、放課後までいていただく場合に学校とどう調整を取っていくかという話になる。保護者に迎えに来ていただけるために、学校としてはそこまですててもらおうということでしたら、保護者の方に対応をお願いするという考え方もある。クラス単位なのか、学年単位なのか、一斉なのかという規模感の話もある。スクールバスをどのタイミングで出すのかは、内容と規模に応じて、伊東小学校と調整するということになる。どうしてもケースバイケースなこともあるのかと思う。

**委員：**規模が大きくなったら、急遽昼から1台なりを出すような交渉はしていただけるのか。

**事務局：**まず、最初に質問のあった12条の3については、そもそもの考え方は台風等について書いてある。台風等で登校時間、下校時間が前後する場合に、スクールバスがなく帰れない児童が発生することを避けるため、市教育委員会として対応するために定めている。その考えでいけば、感染症の関係で時間が急遽変わる場合も、全てのケースかは言えないが、必要な対応、つまりスクールバスの調整もしていきたいと考えている。

**委員：**わかりました。ありがとうございます。

**高橋教育長：**いろいろと特別なケースがあると思うが、これはあくまでも要綱である。細かなケースバイケースのことも含めて、保護者の方に周知徹底をしていく形を今後とっていきたいと思う。細かいことが出ておらず申し訳ないが、今後、事務局がわかりやすく保護者に案内を出していく。それはまた教育委員の皆さんに対応していきたい。自分も今作っているものを見させていただいているが、かなり細かく作っているのもうしばらく、待っていただけたらと思う。

**委員：**ありがとうございます。

**高橋教育長：**よろしいでしょうか。その他、何か意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

**高橋教育長：**それでは、この件について確認する。教議第16号「伊東市スクールバス運行に関する要綱について」は、原案どおり承認してよろしいか。

(異議なし)

**高橋教育長：**委員の皆様から承認が得られたので、教議第16号については原案どおり決定した。以上で議決事項を終了する。次に、「各課報告について」を議題とする。

**相澤次長兼教育総務課長：**伊東小学校の新入児童スクールバス体験乗車について報告する。現在、西小学区旭小学区の幼稚園保育園の年長児は、伊東小学校に通学する際、そのほとんどがスクールバスを利用すると聞いている。その中には、バスに乗った経験がない子が多いと聞く。日常は自家用車、公共交通機関は電車というような方が多いと思う。一度、スクールバスの乗り方、ルートを体験していただきたい。1月28日に実施すると募ったところ、今のところ28人から申し込みがあった。まだ未就学児のため、28日は親子で参加してもらう。実際の通学と同じ3ルートを設定し、時間も朝の早い便と同じ時間を

想定し、体験してもらう。現在の1年生から5年生は、11月に学校別で実施をしているので、今回は、新入学児に体験乗車してもらうものと考えている。

**関野教育指導課長：**生徒指導について報告する。12月報告になります。最初に問題行動だが、小中ともに生徒間暴力が多く見られた。小学校では些細なことをきっかけに、喧嘩が始まるというケースが多かった。中学校でも些細なトラブル、挑発を起点としたトラブルが多かった。軽い気持ちで馬鹿にし、相手が嫌がってもふざけて楽しんだというところから暴力行動に発展することがあった。スイッチが入るという言葉があると思うが、そういうことをやればスイッチが入ることを分かってやっていることがあった。互いの理解や思いやりの気持ちを踏まえて指導していきたい。いじめに関しては、生徒間暴力の1対1の中で片方が、一方的にもう一人をいじめているというケースも報告されている。対処指導について、適宜指導をしている。最後に不登校について、コロナ禍で不登校が増えているという報道もあったが、今年は小中ともに先月とほぼ同数の高止まり状態となっている。ケースの中で、夏に欠席数が増えたが学校が適宜対応したので、12月末には欠席数が減ったケース、もしくは入試に向けた指導を繰り返す中で欠席数が減ったケースがあり、復帰できたケースを学校間で共有しあって、少しでも不登校の生徒を少なくしていきたいと考え、対応している。

**山下幼児教育課長：**伊東市子ども・子育て会議と伊東市放課後児童クラブ運営業務委託者選考の2点について報告する。まず、伊東市子ども・子育て会議は、令和2年度から令和6年度を計画期間とする第2期計画の3年目として、子ども子育て支援事業計画の中間見直しを行った。具体的には、幼稚園を利用する3歳から5歳の子どもの数と幼稚園の定員数、放課後児童クラブの利用者数、幼稚園型一時預かり事業の見込み数が、当初計画より10%以上乖離したため、

数値の見直しを行った。

(山下幼児教育課長から資料に沿って説明)

続けて、伊東市放課後児童クラブ運営業務委託者選考について説明する。

(山下幼児教育課長から資料に沿って説明)

令和5年4月1日の事業開始に向けて、契約内容の協議を実施しており、今月中には契約を締結したいと考えている。

**杉山生涯学習課長**：令和5年伊東市二十歳式と第57回伊東オレンジビーチマラソン2023について報告する。

(杉山生涯学習課長から資料に沿って説明)

最後に善行賞について、報告させていただきたい。例年であれば、一斉に集まり、ひぐらし会館で授与式を行う予定だが、コロナ禍なので、代表校を選出し、授与式を行うこととした。今年は代表校を南中学校にお願いし、2月9日に18名を対象に表彰する。

**高橋教育長**：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

**委員**：二十歳式のことだが、一度中止をし、少しずつできるようになってきた中で、段々と年ごとにやり方が定着し、流れができてきたような気がする。参加している20歳の方たちのインタビューを受ける表情もとてもいい感じがした。オレンジビーチマラソンもそうだが、応援する人がすごく多くなり、やり方を少しずつ元に戻しながらも、継続できていることを感じた。無理に変えず、少しずつ元に戻れるような工夫をしていくことがいいのではないかと感じた。

**高橋教育長**：ありがとうございます。おっしゃる通り、なかなかコロナ禍の3年間、やっていない行事は、これはどうだったか、いろいろと振り返りながらやらなければならないと思うが、少しずつ流れを元に戻す方向と、また改革をしていくことも必要だと思う。焦らずやっていくことが必要だと、今、ご意見

を聞いて思いました。

**委員：**二十歳式の保護者の声だが、やはり今年も保護者の参加ができないとのことで、行ってみたいという方がいらっしゃると思う。その辺の意見も聞いておいた方がいいかと思う。

**杉山生涯学習課長：**確かに生涯学習課の方にももういいのではないかという保護者の方から意見をいただいている。半年程前には運営方法の方向性を決めなければ厳しいものがあるので、昨年の8月ぐらいには、密を避ける意味で、本人たちだけという形にした。また来年については、子どもたちから意見を伺いながら、検討していきたい。

**委員：**今、コロナが5類になるという報道もあるが、小中学校、特に小学生の保護者からの意見で、3月の卒業式で歌が歌えなかった。今年も卒業式で子どもたちの歌を聞きたいのだが、果たしてやってもらえるのかという意見をすごく伺っている。うちの子も去年卒業するときに、学校行事がなかなかなく、保護者に活動を見てもらうことがなかったので、卒業式は歌をとという話があったが、感染が広がり、歌の練習ができず、卒業式にもできるかどうかという状況だった。結局ぶっつけ本番のような形でやったが、親は子どもが、一つ大きくなる中で、記念に残るものを見たいという思いが強い。ガイドライン等があるかと思うが、可能な限りはやらせてあげたいという意見がある。その辺検討いただければと思う。他の学校行事も、令和5年は元に戻して欲しいという意見を聞いている。うまく学校と教育委員会で検討できればと思う。

**高橋教育長：**この後、指導課長に話してもらうが、コロナ禍でいろいろなことが制限された3年間で、子どもたちの気持ちになると複雑な気持ちがたくさんあることは事実だと思う。一生に一度の卒業式を思い切ってやりたいという気持ちも確かだと思う。指導課長いかがでしょうか。

**関野教育指導課長：**今おっしゃられた意見は学校にもいただいております、できるだけ普通の状態に戻そうという動きである。10月頃には中学校で合唱コンクールが行われ、マスクを着けて実施した学校と外した学校があった。小学校もかなり行事が復活しており、今日も寒い中だが、八幡野小学校は自然教室に行っている。かなり緩和されてきているが、今の意見は校長会にも伝えさせていただく。ただ、中学校は3月頭に入試を控えており、入試に参加できなかった、濃厚接触者になったというところはかなり気を遣うところかもしれない。その辺の折り合いと感染状況から総合的に判断した上で、個人的には、極力子どもたちの思い出作りを確保できる範囲で寄与していただければと思う。校長先生方も思いは一つですので、できる限りの方向で話をしていきたい。

**高橋教育長：**文科省のガイドラインもあり、それを遵守するという方向も考えなければならない。できる限り前に進めていきたいと自分は思うので、色々な場でこの話はしていきたいと思う。

**委員：**子ども・子育て支援事業計画を見せていただき、細かく必要な部分を考慮し、数を調整していることが分かった。これだけ充実する中で、利用者支援事業の相談員が配置されることはとても良い取り組みだと思う。需要は多いと思う。それは伊東市に在住している人もそうだが、外から伊東の自然などを魅力に来てくれる人、帰ってきてくれる人たちにも、必要な情報が1か所の窓口で分かるところが充実してくると、ありがたいのかと思う。また、他ではLINEを相談窓口として、そこから広げていき成功している事例もあると聞いた。そのあたりまた充実したらありがたいと思う。もう一点は、不登校の子が復帰するケースがあったと聞けて、すごくいいことだと思った。ケースの具体例も書いてあり、嬉しい報告を受け、よかったなという感想である。この支援のことを一層シェアし、必要な情報が入りやすい仕組みを整えていただければ、あ

りがたい。

**山下幼児教育課長：**今おっしゃられたリアルに聞けるということが、今の幼児教育課に子育て支援の人員が２人いるが、電話であったり、ここに来たり、相談というのがまず一つのチャンネルとしてある。一方、今、メール等での相談はないので、LINE等、別の入り口、情報伝達手段があれば、外から来た方との繋がりができるかと思うので、新たな繋がる手法は研究したい。

**高橋教育長：**放課後児童クラブの運営が、業務委託されるということで、二つの施設をプロポーザルで審議する中で、社会福祉協議会とつくし会が今後運営を担っていく。東小学校に新たな施設が建ち始めているが、１度教育委員で見学をした方が、話題になった際にいいと思う。都合がつけば、ある程度中を見ることができると思う。その見られる時期があれば、少し教えていただきたい。

**山下幼児教育課長：**工事中にも伺うことができると思う。２月定例会か３月定例会の際かと思う。３月はほぼ引き渡しの状態かと思われるので、２月のほうが良いかと思う。

**高橋教育長：**ありがとうございます。見学に行くことについては、いかがか。

（賛成の声）

**高橋教育長：**またその辺、幼児教育課と事務局で連携し進めていただきたい。

**山下幼児教育課長：**こちらに一任していただき、事務局と連携をして、お知らせをする。

**高橋教育長：**その他全般的に、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

**高橋教育長：**今後の日程について確認する。

**事務局：**２月の定例会については、２月１５日（水）午後２時３０分を予定している。３月の定例会については、３月２３日（木）を予定とする。

**高橋教育長**：以上で伊東市教育委員会 1 月定例会を終了する。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

教育長      高橋   雄幸

委   員      村上   恵宏

書   記      松岡   翔太